

ふるさと吉富町

私たちが暮らす「吉富町」には、現在に至るまでの数々の歴史があります。そして、そこには現在の快適な生活のベースがあります。そんなふるさと吉富町について、いろいろな視点からご紹介していきます。

工事中の県道吉富港線とソニック

第26回 「道」に歴史あり

線路をまたぐ道路

吉富町に、近隣ではあまり見かけない珍しい道路があるのをご存知ですか？山国橋から小犬丸を通過して直江の交差点に繋がる「県道・中津吉富線」は、豊前方面に向かって吉富駐在所を過ぎたあたりから上り坂になっていきます。その下をくぐっているのが、JR日豊本線。線路が道路を跨ぐのはよく見る光景ですが、逆はあまり見かけません。この跨線道路の原形は昭和9年に完成しており、楡生山と鈴熊山の間にあった「茶白山」という山の土が使われているそうです。さらに現在、この道路と交差する新道路「県道・吉富港線」の工事が進められています。この新道路も鉄道を跨ぐ設計となっており、道路の開通と同時に「複合立体交差」が誕生することになります。現代の土木設計技術を余すところなく発揮した、高規格の道路です。

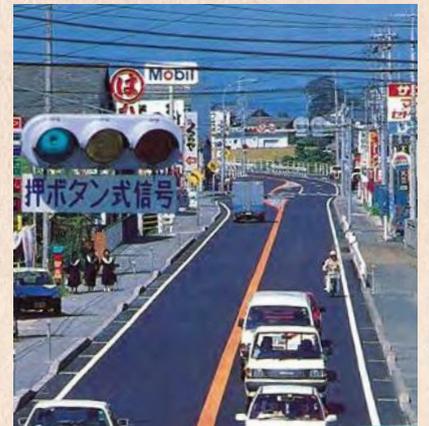
車社会と道路網の発展

さて、ここに昭和50年に発行された町勢要覧の資料があります。これによると、当時「2世帯に1台」の割合で自家用車を所有していたことがわかります。さらに遡って、昭和42年の町勢要覧では「6.3世帯に1台」という数字が確認できます。今でこそ、1世帯1台～複数台の自家用車を所有していることは珍しくありませんが、約40年前は全く違う状況でした。これらのことから、猛烈なスピードで自家用車の普及が進んだことがわかります。そして、自家用車の普及と道路網の発展は、切っても切れない関係にあります。歩行

者や自転車、リヤカーや農耕車が道路交通の大部分を占めていた時代から車社会へと一気に突入し、町内でも、道路の新設や拡幅が次々と進められていきました。

安全と利便を築いたもの

急激な車社会への転換は交通事故の多発を招くこととなり、昭和45年には交通安全対策基本法が制定されました。以降、道路行政は安全対策にも重きが置かれるようになり、カーブミラー、ガードレール、反射材な



▶昭和63年頃の旧国道10号線

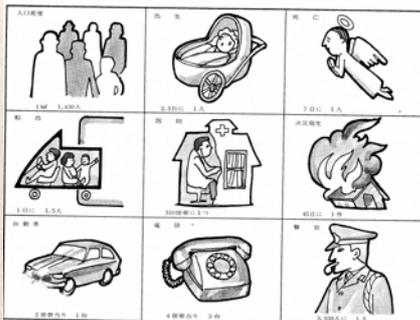
どの設置が進んだとともに、安全運転啓発のための取り組みも図られました。町内では現在も、狭い生活道路の拡幅を順次図っているとともに、路肩のカラー舗装や特色ある標識など、工夫を凝らした様々な取り組みで交通安全を推進しています。さらに、景観に配慮した道路改良なども行われています。

古くから「道」は人々の生活に欠かせないものであり、道路工事も住民自らの手で行っていました。私たちがいま享受している道路の安全性や便利さは、路線計画を立案した人、道路工事に携わった人、道路のために私有地や私費を提供した人など、数えきれないほどの先達の尽力によってもたらされているものなのです。

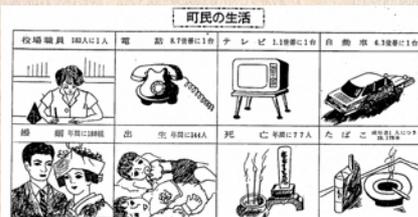


▶昭和30年頃の地図(町誌より)

15. 町民生活



▶昭和50年町勢要覧



▶昭和42年町勢要覧